

課 題 紙

注 意 事 項

1. 企画提案試験は、Ⅰ部とⅡ部に分かれています。まずⅠ部では、この課題紙にある設問に従って、政策概要説明紙（プレゼンテーションシート）を作成します。続いてⅡ部では、Ⅰ部で作成した政策概要説明紙の内容を試験官に向けて発表するとともに、試験官からの質疑に対する応答を行います。
2. 政策概要説明紙の作成について
 - (ア) 政策概要説明紙の作成時間は**1時間30分**です。
 - (イ) 政策概要説明紙の用紙は **1 枚**（両面）です。箇条書きや図、表を用いるなど自由な形式で、提案することとなる政策の内容を分かりやすくまとめてください。
 なお、Ⅰ部で作成した政策概要説明紙をⅡ部で発表する時間は**5分**です。
 - (ウ) 政策概要説明紙への記入は、枠内に濃くはっきりと内容が分かるように行い、書き損じた場合は、解答の内容がはっきり分かるように訂正してください。
 - (エ) 政策概要説明紙の表側の各欄には、それぞれ必要事項を記入してください。
 - (オ) 試験の公正を害するおそれがありますので、設問と関係のない事項は記載しないでください。
3. この課題紙及び参考資料は、Ⅰ部終了時に一旦回収します。回収した課題紙及び参考資料は、Ⅱ部開始後に政策概要説明紙のコピーとともにもう一度お渡ししますが、Ⅱ部終了時には再度回収します。
4. 試験時間中に、この課題紙を切り取ったり、転記したりしないでください。
5. 下欄及び**参考資料**の表紙の所定の欄に受験番号等を記入してください。

第1次試験地	試験の区分 教 養	受験番号	氏 名
--------	--------------	------	-----

指示があるまで中を開いてはいけません。

設問 次に示される状況及び課題に応じた政策概要説明紙（プレゼンテーションシート）を作成しなさい。

政策概要説明紙の作成に当たっては、**参考資料**を用いても差し支えないが、**参考資料**から考えられる施策のみを提案する必要もないものとする。

あなたが置かれている状況

あなたは、ある組織の行政官として上司から次の課題が与えられており、自分の提案を説明するための資料を作成しようとしている。また、あなたの提案は組織内で検討されたのち、実現に向けて関係府省との調整等を経て、最終的には、国民に対して公表されることとなっている。

上司からの課題

我が国は、AI（Artificial Intelligence）の分野で、技術面・産業面・利用面において、世界のAI先進国に後れを取っている状況にあり、今後、AIに関わるイノベーションの推進に資する取組が一層必要となっている。

AIは、我々の社会生活・経済に関して利便をもたらす可能性がある一方で、リスクも広範に及ぶ可能性があるため、イノベーション推進とリスクへの対応を同時に進めることが重要である。

このような状況を踏まえ、我が国において、AIに関わるイノベーションを推進していく上で、特に対応が必要と考えるリスクを複数挙げつつ、イノベーション推進とリスク管理を両立させる施策を提案し、その全体概要を説明する資料を作成しなさい。

なお、施策の提案に当たっては、提案した施策を推進する上での留意点についても必ず触れること。

P 1 — 2 0 2 6 — 2 企画提案試験 参考資料

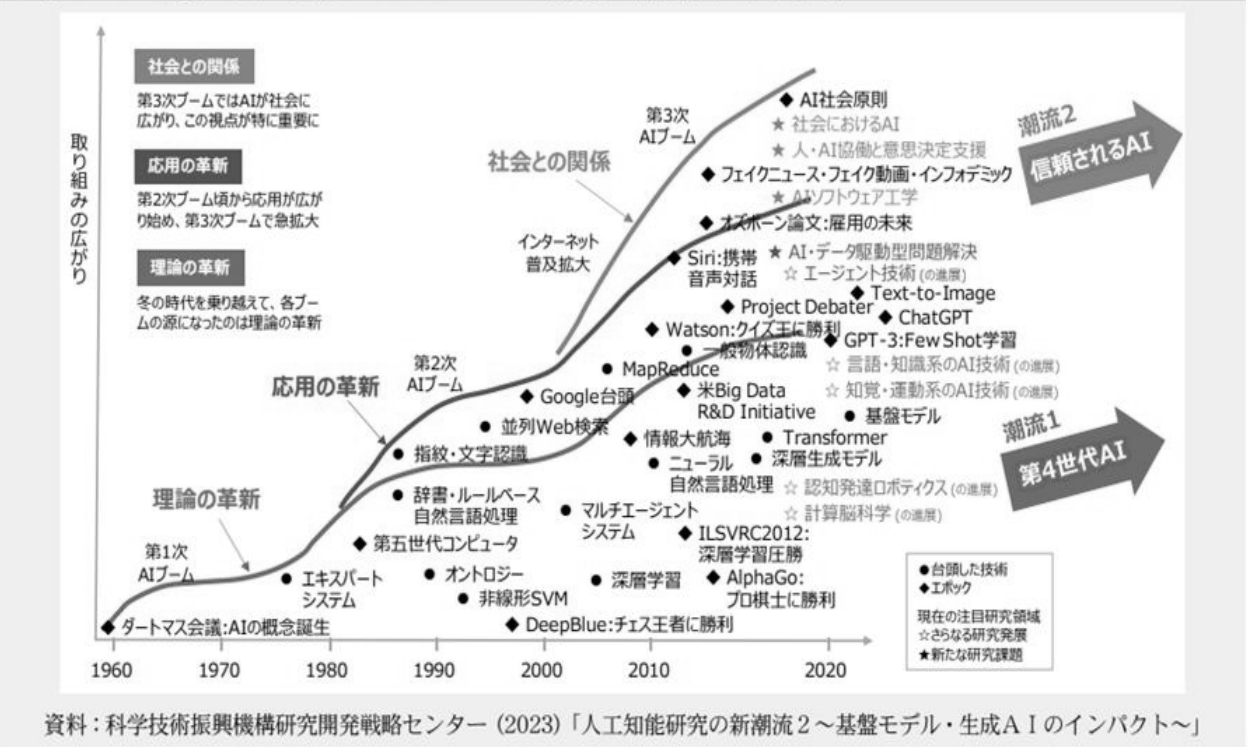
(注) 本参考資料は、次の資料を出典とする。

- ・ 総務省「令和 7 年版 情報通信白書」、「令和 6 年版 情報通信白書」
- ・ 文部科学省「令和 6 年版 科学技術・イノベーション白書」

第 1 次試験地	試験の区分 教 養	受験番号	氏 名
----------	--------------	------	-----

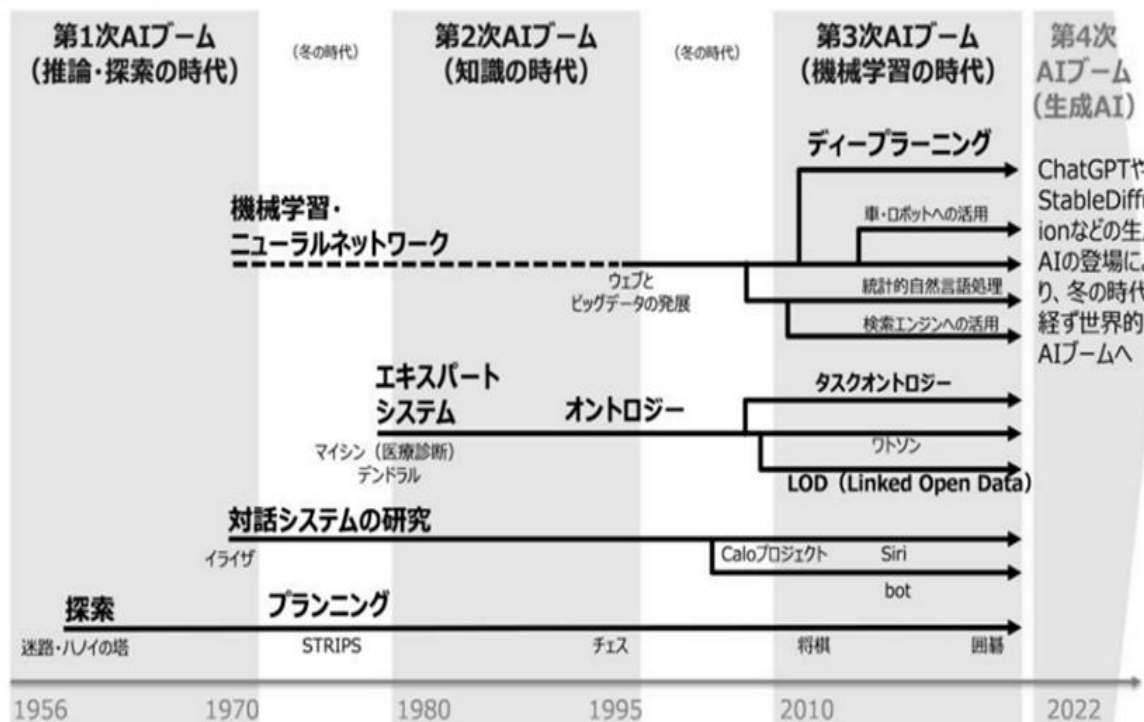
①

■ 第 1-1-1 図／人工知能・ビッグデータ技術の俯瞰図（時系列）



②

図表 I-3-1-1 人工知能・ビッグデータ技術の俯瞰図



③

図表 I -3-2-1 AIの進化に伴い発展するテクノロジーの変遷



(出典) 各種資料を基に作成

④

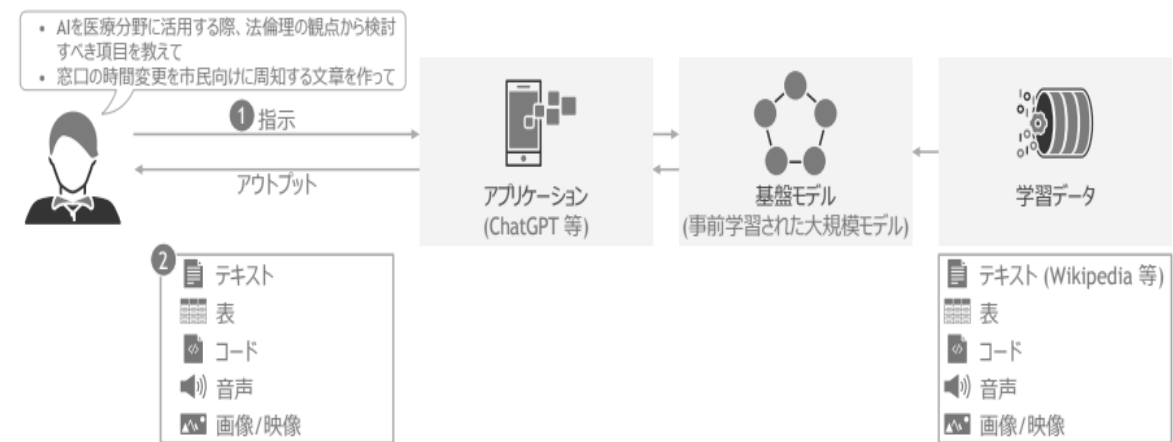
図表 I -3-2-2 AIの実用化における機能領域

識別	予測精度	実行
● 音声認識 ● 画像認識 ● 動画認識 ● 言語解析	● 数値予測 ● マッチング ● 意図予測 ● ニーズ予測	● 表現生成 ● デザイン ● 行動最適化 ● 作業の自動化

(出典) 総務省 (2016) 「ICTの進化が雇用と働き方に及ぼす影響に関する調査研究」

⑤

図表 I-3-1-3 生成AIの概要



① 自然な言語で簡単に指示が出せる (ユーザー側での調整や学習なしに汎用的な活用が可能)

② 様々な形式のアウトプットを取得できる (テキスト/表/コード/音声/画像/映像)

(出典) ポストン コンサルティング グループ Bommasani et al. “On the Opportunities and Risks of Foundation Models,” Center for Research on Foundation Models, 2021 を基に分析

⑥

図表 I-3-1-4 主な生成AIサービスの種類と機能

主なサービス	できること
言語生成AI	
ChatGPT/GPT-4 (OpenAI) Bard (Google) Bing Chat (Microsoft) Copilot (Microsoft)	・ 質問、要約、計算、言い換え、翻訳、知識発見等 ・ 検索と組み合わせた対話的な文章生成 ・ プログラミングの補助 等
動画生成AI	
StableDiffusion Midjourney Adobe Firefly Gen-2	・ 画像生成、画像の一部編集、画像の自動彩色、線画抽出 ・ 動画生成
音生成AI	
MusicGen Synthesizer V So-Vits-SVC	・ 音楽、効果音の生成 ・ 歌声生成 ・ 声の変換、声の言語変換
その他	
—	・ 3Dオブジェクトの生成 ・ 分子構造の生成 等

(出典) 各種公開資料を基に作成

⑦

図表 I-3-1-5 生成AIブームにある技術的要因

要因	解説
大規模言語モデル・基盤モデルの登場	人間の言語を理解し生成する能力を持つモデル。大量のテキストデータから学習し、自然なテキスト生成が可能。
オープンソース化	ソースコードが公開されており、誰でも無料でアクセス、使用、改良が可能。技術の普及とイノベーションを促進。
ユーザーインターフェース (UI)	直感的で使いやすいインターフェースを提供し、非技術者でもAIツールを容易に操作できるように設計されている。
APIによる提供	プログラミングインターフェースを通じてAI機能を他のアプリケーションに組み込みやすくする。多様な開発が可能。
高い汎用性・マルチモーダル機能	テキストだけでなく、画像や音声など複数のモードを扱う能力。様々なタイプのデータを処理・生成できる。

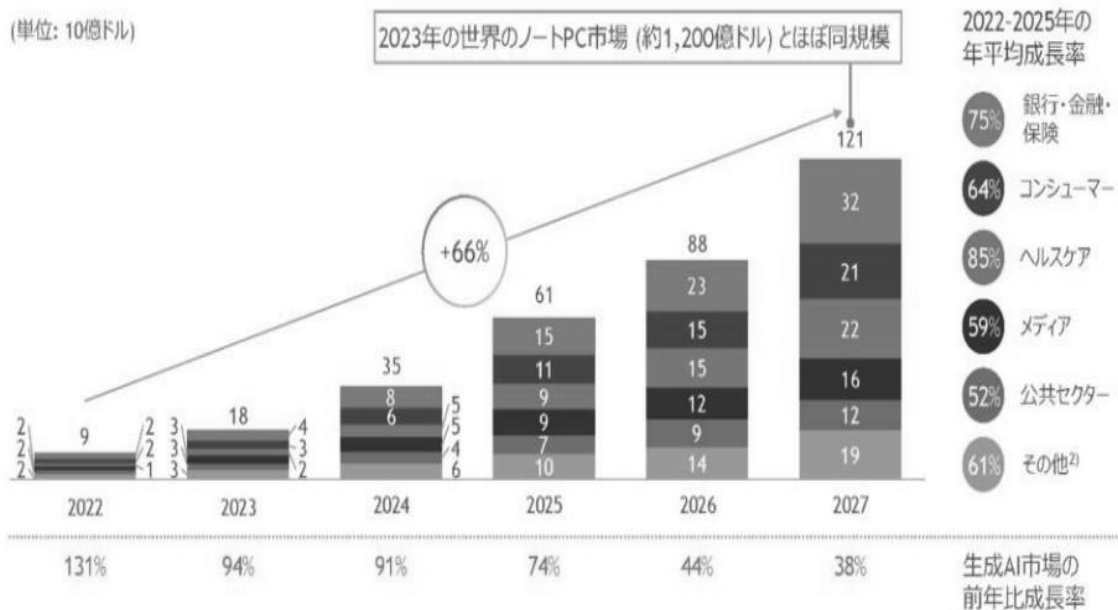
(出典) 各種公開資料を基に作成

⑧

図表 I-3-1-6 生成AIの市場規模 (試算)

想定される生成AIの市場規模¹⁾は2027年には1,200億ドル

(単位: 10億ドル)

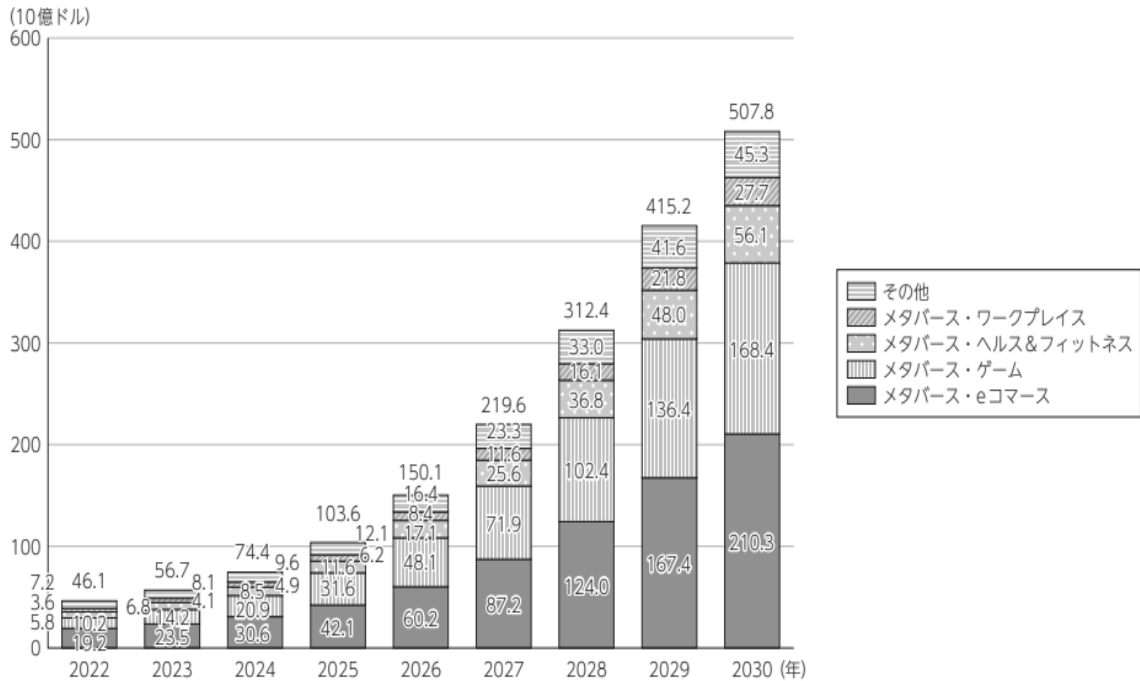


- 1: TAM = Total Addressable Market、獲得可能な最大の市場規模、現段階の生成AIがサービスを提供できる全市場の規模
 2: その他には、産業財、エネルギー、電気通信の各市場を含む

(出典) ポストン コンサルティング グループ「The CEO's Roadmap on Generative AI」(2023年3月)

⑨

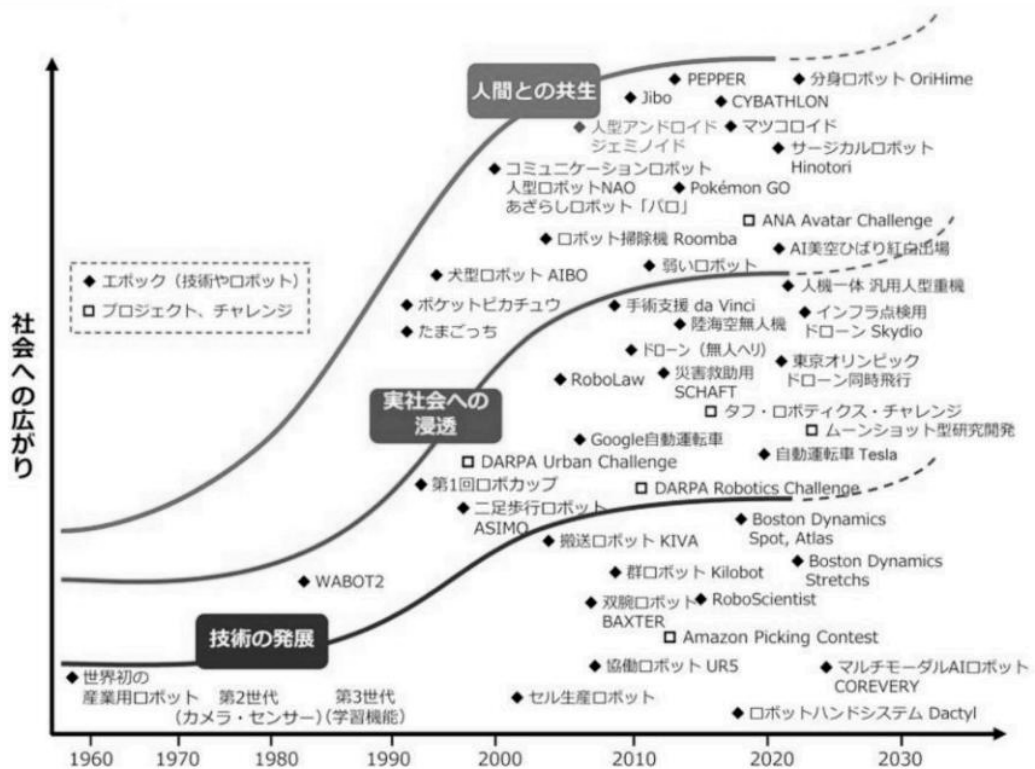
図表 I -3-2-3 メタバースの市場規模



(出典) Statista

⑩

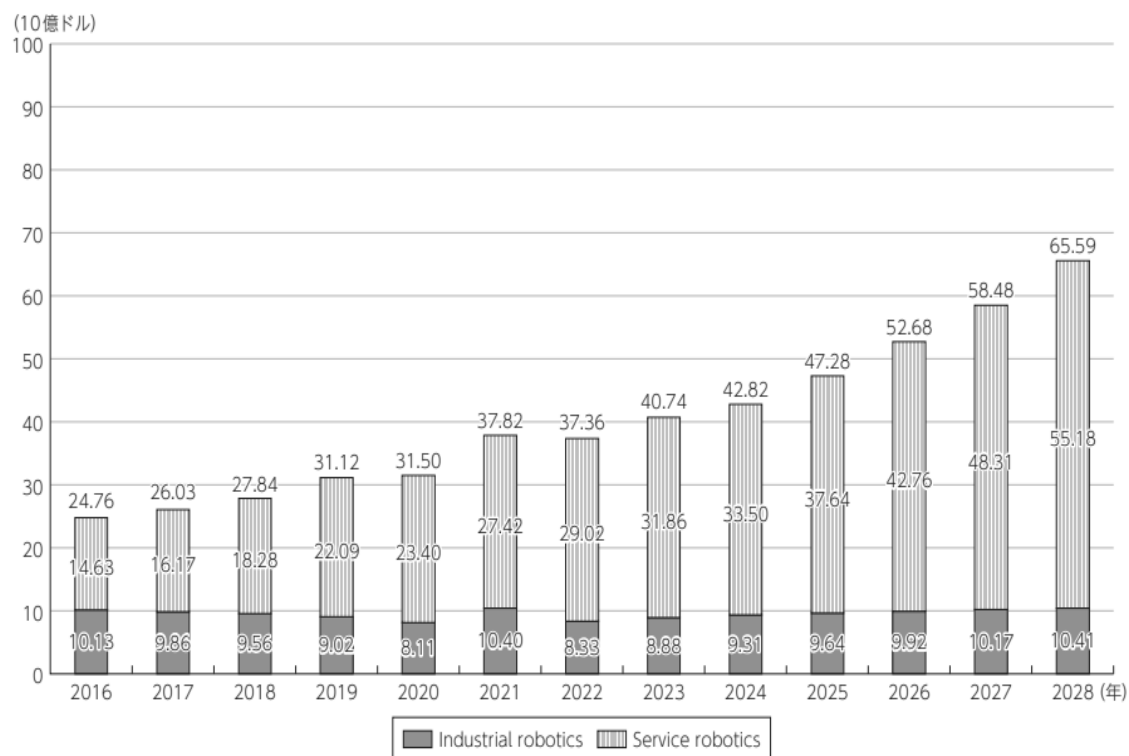
図表 I -3-2-4 ロボティクスの研究開発のトレンド



(出典) CRDS 国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター 研究開発の俯瞰報告書 システム・情報科学技術分野 (2023年)

11

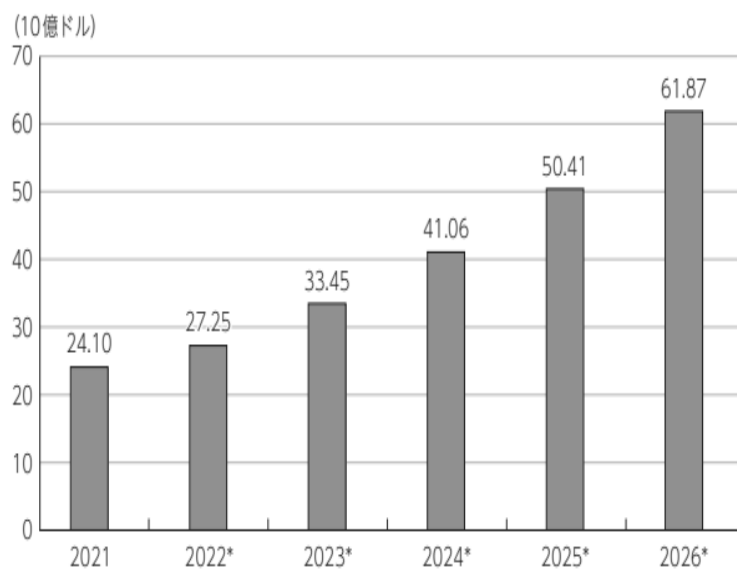
図表 I-3-2-5 ロボティクスの市場規模



(出典) Statista [Statista Market Insights]

12

図表 I-3-2-6 自動運転車の市場規模

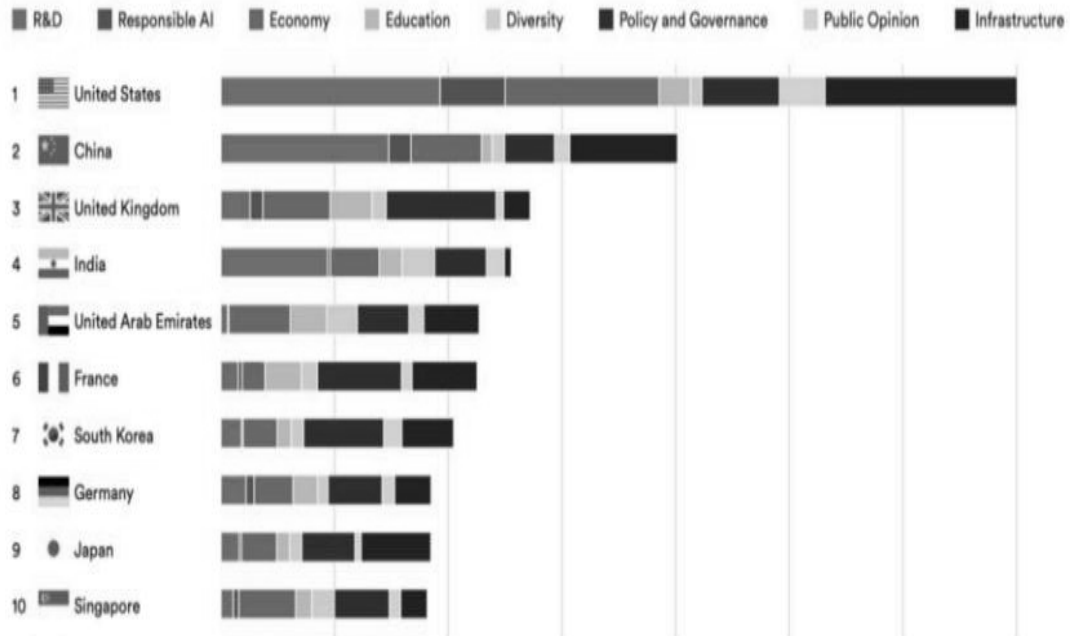


*の付された年は予測値となっている。

(出典) Statista

13

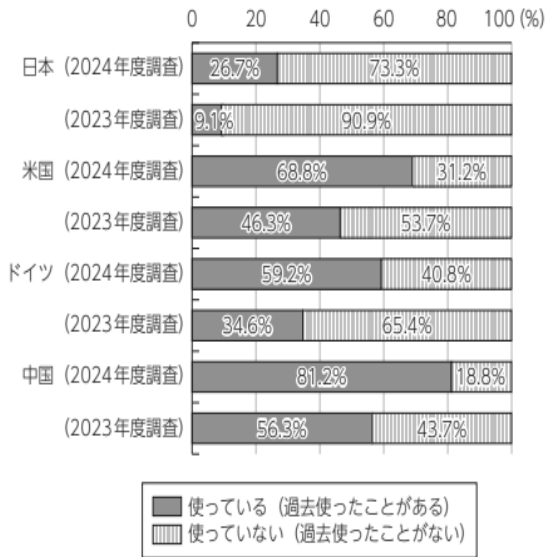
図表 I -1-2-4 AI活カランキング上位10カ国 (2023年)



(出典) Stanford University Human-Centered Artificial Intelligence (2024)「Global AI Vibrancy Tool」

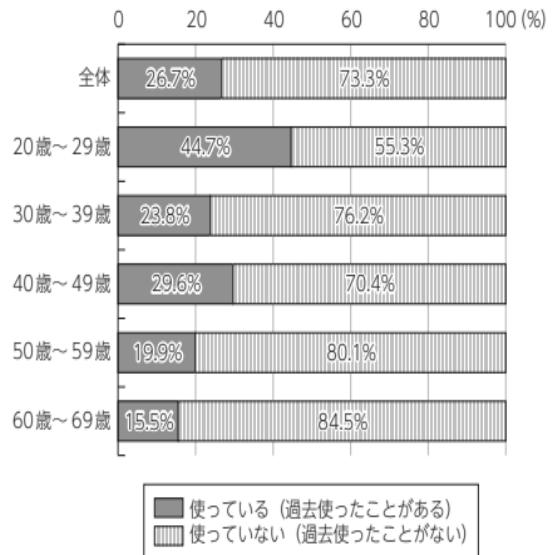
14

図表 I -1-2-7 生成AIサービス利用経験 (国別)



(出典) 総務省 (2025)「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

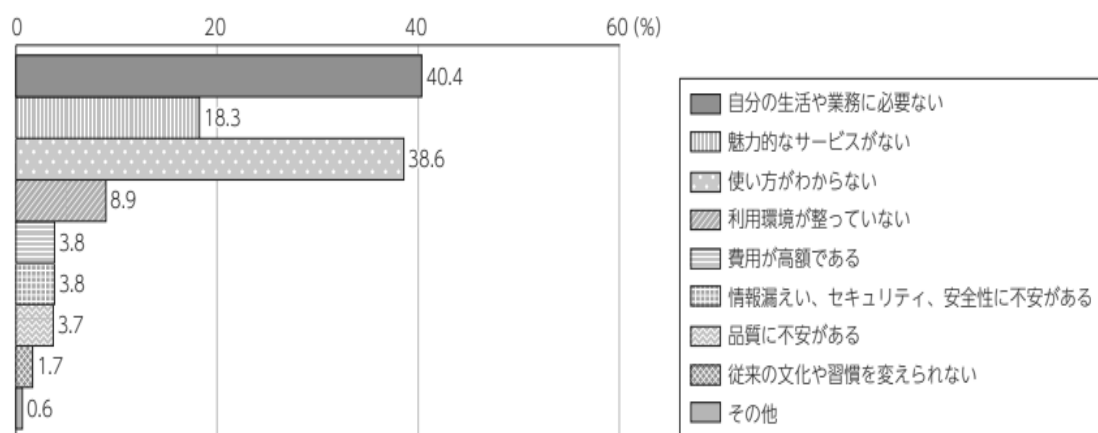
図表 I -1-2-8 生成AIサービス利用経験 (年代別、日本)



(出典) 総務省 (2025)「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

15

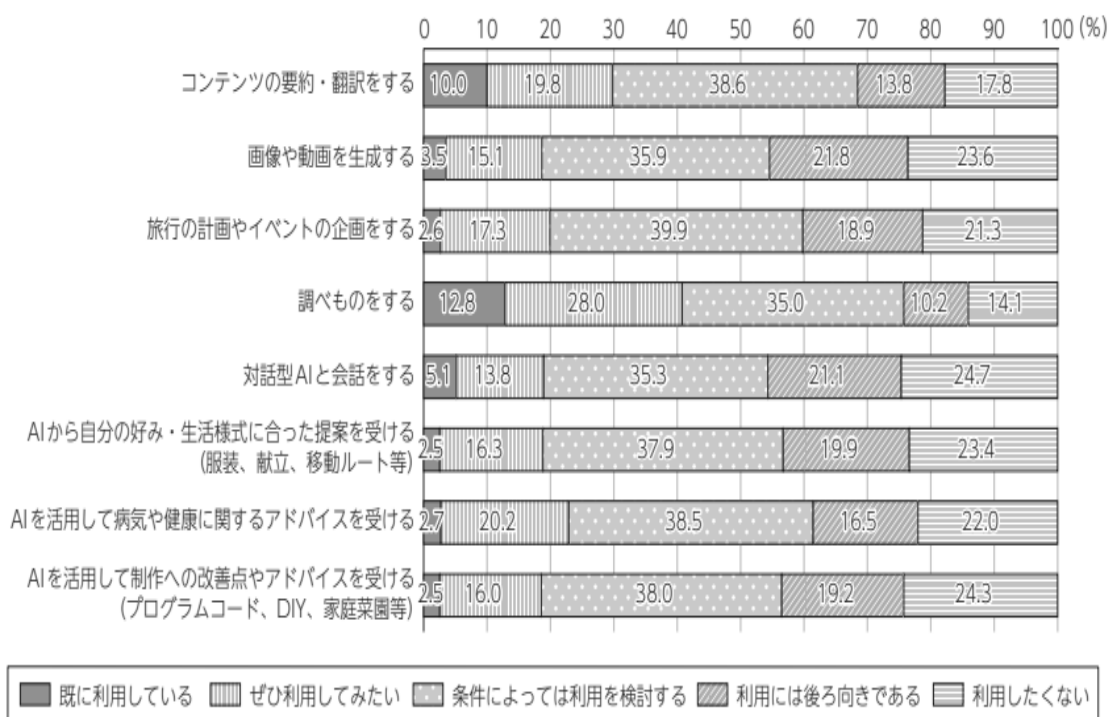
図表 I-1-2-9 テキスト生成AIサービスを利用しない理由



(出典) 総務省 (2025)「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

16

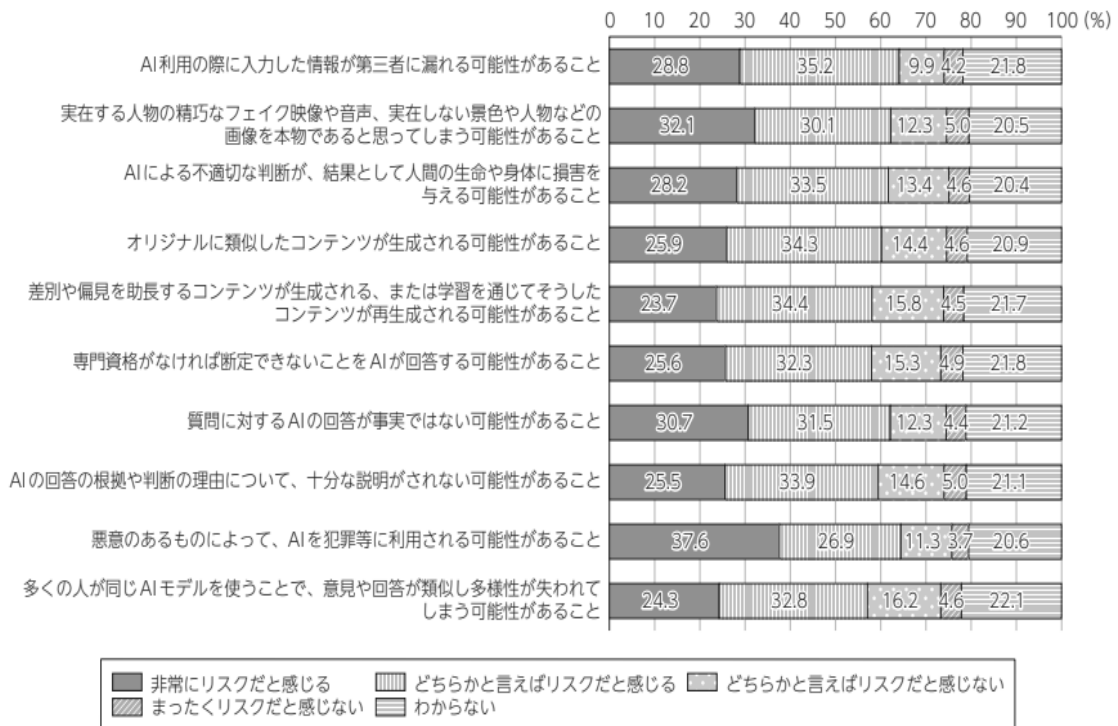
図表 I-1-2-10 生成AI・AIの利用意向



(出典) 総務省 (2025)「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

17

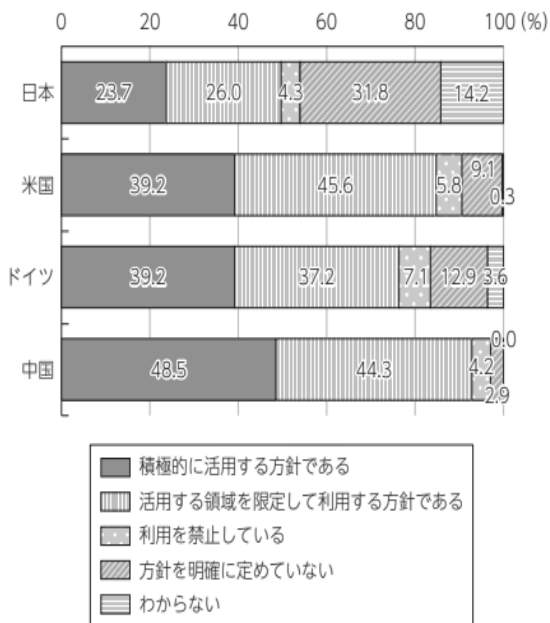
図表 I-1-2-11 AI利用リスクに関する考え方



(出典) 総務省 (2025) 「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

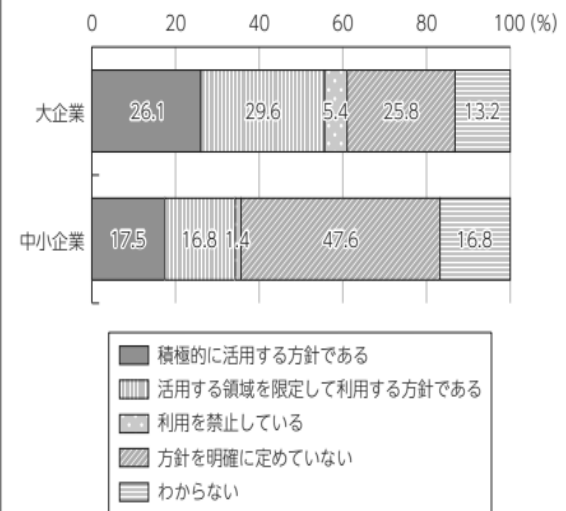
18

図表 I-1-2-12 生成AIの活用方針策定状況 (国別)



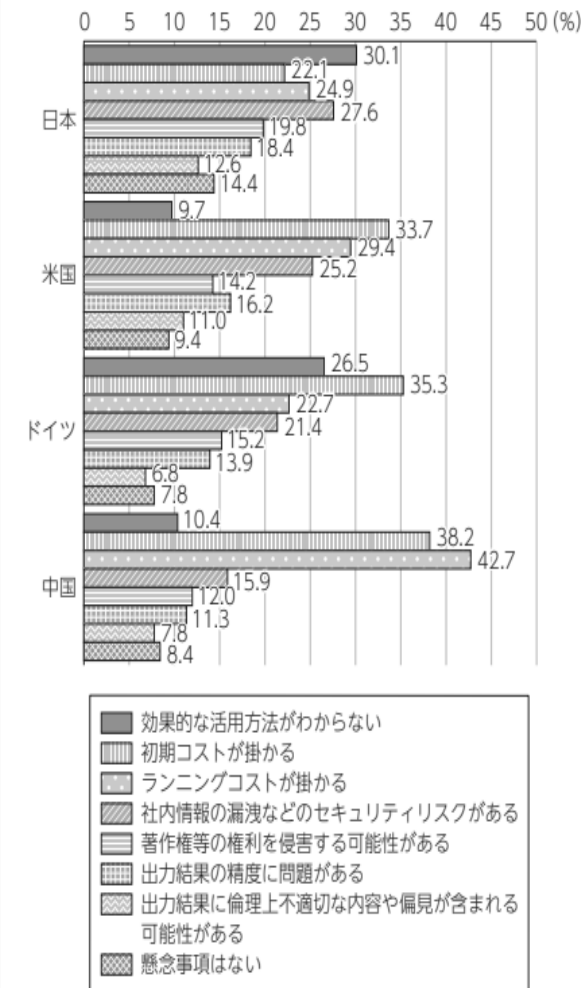
(出典) 総務省 (2025) 「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

図表 I-1-2-13 生成AIの活用方針策定状況 (企業規模別 (日本))



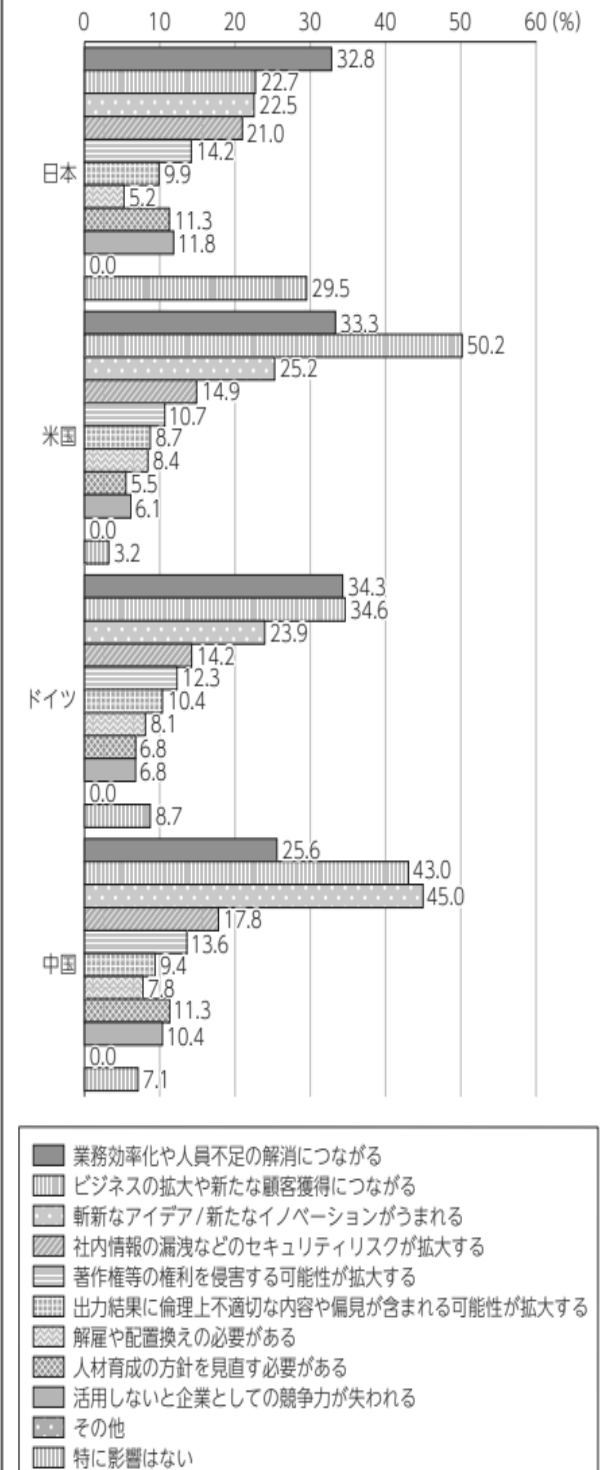
(出典) 総務省 (2025) 「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

図表 I-1-2-15 生成AI導入に際しての懸念事項 (国別)



(出典) 総務省 (2025)「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

図表 I-1-2-16 生成AIの活用による効果・影響 (国別)



(出典) 総務省 (2025)「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

図表 I-2-2-1 AIによるリスク例の体系的な分類案

・下表はAIのリスクを網羅したものではなく、想定に基づく事案も含んでおり、あくまで一例として認識することが期待される
 ・下表には政府等の公的機関も含めた社会全体での対応・議論が必要となるリスクも含まれる

大分類	中分類	リスク例
技術的リスク (=主にAIシステム特有のもの)	学習及び入力段階のリスク	データ汚染攻撃等のAIシステムへの攻撃
	出力段階のリスク	バイアスのある出力、差別的出力、一貫性のない出力等 ハルシネーション等による誤った出力
	事後対応段階のリスク	ブラックボックス化、判断に関する説明の不足
社会的リスク (=既存のリスクがAIにおいても発生又はAIによって増幅するもの)	倫理・法に関するリスク	個人情報の不適切な取扱い
		生命等に関わる事故の発生
		トリアージにおける差別
		過度な依存
		悪用
	経済活動に関するリスク	知的財産権等の侵害
		金銭的損失
		機密情報の流出
		労働者の失業
		データや利益の集中
	情報空間に関するリスク	資格等の侵害
		偽・誤情報等の流通・拡散
		民主主義への悪影響
		フィルターバブル及びエコーチェンバー現象
		多様性・包摂性の喪失
	環境に関するリスク	バイアス等の再生成
		エネルギー使用量及び環境の負荷

(出典) 総務省・経済産業省「AI事業者ガイドライン(第1.1版)別添(付属資料)概要」(2025年3月)

